

# 学生×家島でつくる カフェいえしま

2019年度 太田ゼミ（都市計画研究室）地域創生実践プロジェクト  
3年 阿部舞、永瀬紗織、西島優、福島瀬里

## 1. プロジェクトの背景

私たち太田ゼミ3回生は、昨年度に引き続き家島諸島の活性化を目的とした実践プロジェクトを行うこととなりました。

家島諸島は、兵庫県姫路市にあり、大小44の島々で構成されています。その中でも、最も人口が多い島は、家島本島の約2,700人（令和元年12月末時点）であり、姫路港から定期船で約30分に位置しています。

家島諸島で実践活動を行うにあたり、家島諸島の概要、現在抱えている問題の調査を始めました。

まずは、2019年3月に家島本島でのフィールドワークを行いました。フィールドワークでは、実際に島内をサイクリングするだけでなく、いえしまコンシェルジュの中西和也さんに話を伺いました。フィールドワークからは、島内における案内看板や外国人向けサービスの不足といった観光面での課題が浮かび上がってきました。このことから私たちは、家島本島では、観光客向けのイベントが活発に行われていないのではないかとという仮説を立てました。

次に仮説を検証するため、家島しまたびというパンフレットを用いて、家島本島で行われたイベントの類型化を行いました。その結果、イベントは通年行われており、漁業体験など島ならではのイベントが多く実施されていることが分かりました。しかし体験型のイベントが多いためか、その多くは3,000円以上の予算が必要でした。

そして次に、学生における家島諸島の認知度の把握、及び学生のイベントに対する関心を調査するため、昨年に引き続き、6月のまちづくり論の講義にて、兵庫県立大学の学生47名にアンケート調査を実施しました。約半数の学生は、「家島諸島を知っている」という回答でしたが、回答者の約4分の3が兵庫県内出身であるということ踏まえると、家島諸島の認知度は、決して高いとはいえない結果となりました。そして、実際に家島諸島を訪問した経験がある学生は、全体の約30%にとどまりました。また、65%の学生が「1度のイベントに支払える金額は3,000円まで」と回答しました。

これら3つの調査より、家島が抱える課題は、学生における認知度の低さであると考え、認知度の向上及び家島諸島への訪問者の増加による家島諸島の活性化をプロジェクトの目的としました。

## 2. プロジェクトの企画と活動

まず具体的なプロジェクト内容を決めるにあたり、目的を達成するためにはどのような要素が必要か考えました。挙げられた要素は、家島諸島の魅力がストレートに伝わる、学生が気軽に楽しめる、学生が家島諸島を訪問する機会をつくる、学生への波及効果を目的とした学生あるいは学生団体とのコラボレーションといったものです。これらを踏まえて立案したプロジェクトが、“学生×家島でつくる カフェいえしま”になります。このプロジェクトは、学生が実際に家島諸島を訪れ、家島の住民とともに家島諸島で獲れた魚を使用したランチメニューを考案し、提供するというものです。そしてランチの提供は、学生の予算を考慮し、姫路市中心市街地内で行うこととなりました。

次に、兵庫県立大学環境人間学部内を中心に、プロジェクトへの参加学生を募集しました。また同時に、ランチメニューを考案し提供するという事で、その経験がある兵庫県立大学の学生団体DENにコラボレーションの依頼をしました。その結果、一般学生からの参加希望者はゼロでしたが、兵庫県立大学学生団体DENに所属している6名の学生が許諾し、ともにプロジェクトを行うこととなりました。

そして、いよいよランチメニューの考案が始まりました。9月4日(水)、26日(木)の2度にわたり家島本島を訪問しました。1度目は、ランチメニューの候補を出しあい、それを踏まえて2度目は試作を行いました。どちらも家島の住民の皆様に参加していただき、家島らしいランチを提供できるようなアドバイスを頂きました。試行錯誤の末、完成したものが、「家島ほっこりランチ」になります。家島の伝統料理や家島で実際に行われている味付けなど、食事を通して家島諸島の魅力が伝わるよう工夫しました。

広報活動については、まず学内で5月から発行している『家島たより』に加え、プロジェクトのSNS、環境人間学フォーラムでのポスター発表などが挙げられます。しかし、学内だけでは広報不足であると考え、いくつかのメディアへ取材協力を依頼しました。その結果、2019年12月1日の神戸新聞朝刊への掲載、及びFMゲンキに生出演することができました。このように学外での広報活動にも力を入れて取り組んできました。

### 3. 「カフェ いえしま」当日の様様

「カフェ いえしま」は、12月7日(土)8日(日)の2日間、学生団体 DEN が普段活動している町家しょうあんを借りて、実施しました。

家島諸島についてより深く知っていただくために、以下のようなプログラム構成としました。

表1:「カフェ いえしま」タイムスケジュール

第1部「食べよう！知ろう！いえしま」 11:00~12:00/12:30~13:30	
11:00~11:20 (12:30~12:50)	家島諸島・プロジェクトの紹介
11:20~11:50 (12:50~13:20)	家島ほっこりランチの提供
11:50~12:00 (13:20~13:30)	アンケート回答・記念撮影
第2部「もっと知ろう！語ろう！いえしま」 15:00~16:00	
15:00~15:20	家島諸島・プロジェクトの紹介
15:20~15:50	家島クイズ
15:50~16:00	アンケート回答・記念撮影

家島諸島紹介では、家島地域おこし協力隊の伊藤真美さんやいえしまコンシェルジュの中西和也さん、NPO いえしまの皆さんにお越しいただき、住民の視点から家島諸島を紹介していただきました。上記のプログラムに加え、店内では家島諸島に関するパンフレットの配布やお土産販売も行いました。

そして、魚など一部の食材は7日の朝、家島本島から配送される予定であったことや、各1時間のプログラム構成であったことから、完全予約制としました。さらに、店のキャパシティや食材・調理の関係から各時間帯 10名限定(先着順)としました。

### 4. 成果と今後の課題

7日8日の来店者数はそれぞれ、26名、24名となっており、1日の目標来店者数が30名であったことを踏まえると、8割目標を達成することができたとと言えます。さらに、6月に実施したアンケート調査と「カフェ いえしま」にて実施したアンケート調査の対象者が同一ではないため、一概に家島諸島の認知度が向上したとは言えませんが、まちなかで「神戸新聞を見た」と声をかけてくださることが何度かあり、家島諸島の認知度の向上に貢献できているのではないかと考えます。

しかし、プロジェクトのターゲットである学生は「カフェ いえしま」の来店者の約4割にとどまりっていることや、今回のプロジェクトは第1に認知度の向上をめざし活動を行ったため、当プロジェクトにより家島諸島への訪問者が増加したかどうかは定かではありません。そのため、今後の課題としては、学生が惹かれる事柄の調査、及

びそれに関する家島諸島の魅力発信、及びイベント等の仕掛けを考え、実施することが挙げられると考えます。

### 5. 謝辞

当プロジェクトの実施にあたり、家島の方々には大変お世話になりました。記して感謝申し上げます。

(文責：阿部舞)



図1:「カフェ いえしま」8日の記念撮影

(出所) 兵庫県立大学学生団体 DEN 所属 学生撮影



図2:ゼミ生が作成した「家島たより」